

# 令和 2年度（31年度実施分）事務事業目的評価表

様式1-1

記入日

令和02年12月07日

1 事務事業 の 現 状  P L A N 及 び D O	事務事業名	No.	307	準用河川維持事業							
	この事務事業 の位置	政策	快適で暮らしやすいまち								
		施策	生活の基盤が整ったまちをつくろう								
		基本事業	河川								
	主管課名	道路河川課			課長名	成田 明弘					
	この事務事業の開始時期	準用河川の認定以降			事務区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務					
	この事務事業の根拠法令	河川法									
	事業の概要	河川堤防における草刈や川底の浚渫を定期的に行い適正な河川管理を行う。			現在の状況とこの事務事業を行う根拠または理由 河川災害を未然に防止し、河川美化を図る。						
	H31年度に実施した具体的な事業の方法、手順、指標に対する成果等	①草刈委託設計書作成 ②委託業務発注 ③打合せ ④業務内容確認及び検査 ⑤支払い事務 ⑥浚渫土量算出 ⑦設計書作成 ⑧工事発注 ⑨業務内容確認及び検査 ⑩支払い事務									
	事務事業を取り巻く状況は過去と比べ変化しているか	現在事業途中のため現状のまま継続して実施			(1) 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）						
変 化 内 容				名称		単位					
				① 草刈面積			m <sup>2</sup>				
				② 浚渫量			m <sup>3</sup>				
対象(この事業の対象、範囲となる人、物) 準用河川の本数				(2) 対象指標（対象の大きさを表す指標）							
				名称		単位					
				① 管理する河川の本数			河川				
				②							
目的(この事業によって上記対象をどのような状態にしたいのか) ①除草により生活環境を向上させる ②犯罪予防をする ③景観を向上させる				(3) 成果指標（目的の達成度を示す指標）							
				名称		単位					
				① 草刈面積			m <sup>2</sup>				
				②							
結果(上位基本事業の意図) 多自然型により河川整備を行なう				(4) 結果の成果指標（上位基本事業の成果指標）							
				名称		単位					
				① 準用河川の整備延長			m				
				②							
事務事業の各種指標の実績と見込及び目標											
指標 \ 年度	単位	H30年度 実績値	H31年度 計画値	H31年度 実績値	R2年度 計画値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値			
(1)の 活動指標	① m <sup>2</sup>			151,881	150,000	150,000	150,000	150,000			
	② m <sup>3</sup>			112.6	30	30	30	30			
(2)の 対象指標	① 河川			8	8	8	8	8			
	②										
(3)の 成果指標	① m <sup>2</sup>			151,881	145,000	145,000	145,000	145,000			
	②										
(4)の結果の 成果指標	① m			5,585	5,614	5,625	5,665	5,765			
	②										
予算費目	会計	01 一般会計				款	08	項	03	目	01
コスト	年度	H30年度 実績値	H31年度 計画値	H31年度 実績値	R2年度 計画値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値			
事業費(決算又は予算額) A	単位	0	0	21,780	51,951	64,031	61,431	39,931			
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0	0	0			
	一般財源	千円	0	0	21,780	51,951	64,031	61,431	39,931		
人件費 B	千円	0	0	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500			
正職員従事時間×人数	時間×人	0×0	0×0	250×10	250×10	250×10	250×10	250×10			
正職員以外の人件費	千円	0	0	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100			
その他の費用 C	千円	0	0	410	410	410	410	410			
トータルコスト A+B+C	千円	0	0	33,690	63,861	75,941	73,341	51,841			
単位あたりコスト	① 千円/河川	0	0	4,211.3	7,982.6	9,492.6	9,167.6	6,480.1			
(トータルコスト/(2)の対象指標)	② 千円/	0	0	0	0	0	0	0			

事務事業名	No.	307	準用河川維持事業
-------	-----	-----	----------

2 評価 CHECK	この事業の必要性は薄れていませんか。十分な成果が得られていますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 得られている <input type="checkbox"/> 得られていない	理由	十分な成果は得られているが河川堆積土が増加しているため、浚渫が必要である
	事業進展等による環境変化に伴い、対象を見直す（拡大・縮小）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	河川の増減はないため
	事業進展等による環境変化に伴い、目的を見直す（目的の追加・拡充又は絞込）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	河川管理区域の変更がないため
有効性	今以上に事業の成果を向上させる方法を記入して下さい。 ※(3)の成果指標を向上させることはできますか？	内容	河川管理区域の増減は無いが必要な場所の草刈を増やすことで成果の向上が見込まれる	
	目的達成状況	内容	委託業務、工事完了により目的が達成されている	
	市関与の必要性（実施手法）	内容	<input type="checkbox"/> 民間への一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 民間への全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金助成 <input type="checkbox"/> 市の直営 河川草刈、修繕工事は民間業者の関与が必要である	
効率性	事務事業の統廃合により、事業の効率化を図り、成果を向上させる方法を記入して下さい。	内容	他に統廃合する事業がない	
	現状より事業費・人件費を削減する方法を記入して下さい。（仕様の変更、外部委託、従事時間の削減等はないか？）	内容	河川区域の変更ができないため困難	
公平性	受益者負担はありますか？ また、受益者負担割合は適正ですか？	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> 現状で適正 <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> 検討が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者がいない	内容	直接的な受益者がいない

3 改革 改善案 ACTION	事業実施上の課題、住民・議会等からの意見と対応策	意見	土砂や草等の堆積物の除去が必要である。	対応策	定期的な浚渫や草刈を行う。
	R2年度の事業計画は前年度から変更・追加はあるか	前年度	河川草刈、緊急修繕、緊急浚渫	変更・追加	河川浚渫・伐採工事
	今後の事業・コスト・成果の方向性	今後の事業の方向性、改革・改善案 ※今年度からの具体的な事業の進め方、手段の見直し等、各方向性の内容 地域住民による河川愛護ボランティアが望まれる。			
コストの方向性		↑ 増加			
成果の方向性		→ 維持			

# 令和 2年度（31年度実施分）事務事業目的評価表

様式1-1

記入日

令和02年12月07日

1 事務事業 の 現 状  P L A N 及 び D O	事務事業名		No.	308	準用河川改修事業							
	この事務事業 の位置		政策	快適で暮らしやすいまち								
			施策	生活の基盤が整ったまちをつくろう								
			基本事業	河川								
	主管課名		道路河川課			課長名	成田 明弘					
	この事務事業の開始時期			昭和58年		事務区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務					
	この事務事業の根拠法令			河川法								
	事業の概要					現在の状況とこの事務事業を行う根拠または理由						
	河川改修事業 準用河川砂後川 準用河川茶屋川 事務費 旅費、需用費					市内の準用河川で狭小な河川断面により、大雨によっ て被害を受ける未改修区間を早期に改修することによ り、河川災害を未然に防ぐ。						
	H31年度に実施した具体的な 事業の方法、手順、指標に対す る成果等			①測量業務委託 ②実施設計業務委託 ③工事費積算 ④工事発注 ⑤現場監督 ⑥完了検査 ⑦支払い業務								
事務事業を取り巻く状況は過去と比べ変化しているか					(1) 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）							
変 化 内 容	国庫補助金が削減されてきているため、変化している。				名称		単位					
					① 改修延長		m					
					②							
対象(この事業の対象、範囲となる人、物)					(2) 対象指標（対象の大きさを表す指標）							
準用河川					名称		単位					
					① 河川改修計画延長		m					
					②							
目的(この事業によって上記対象をどのような状態にしたいのか)					(3) 成果指標（目的の達成度を示す指標）							
地域環境と調和のとれた河川にする					名称		単位					
					① 河川改修済み延長		m					
					②							
結果(上位基本事業の意図)					(4) 結果の成果指標（上位基本事業の成果指標）							
多自然型により河川整備を行う					名称		単位					
					① 準用河川の整備延長		m					
					②							
事務事業の各種指標の実績と見込及び目標												
指標 \ 年度		単位	H30年度 実績値	H31年度 計画値	H31年度 実績値	R2年度 計画値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値			
(1)の 活動指標		① m			60	29	11	40	100			
		②										
(2)の 対象指標		① m			4,155	4,155	4,155	4,155	4,155			
		②										
(3)の 成果指標		① m			3,435	3,464	3,475	3,515	3,615			
		②										
(4)の結果の 成果指標		① m			5,585	5,614	5,625	5,665	5,765			
		②										
予算費目		会計	01 一般会計				款	08	項	03	目	01
コスト		年度	H30年度 実績値	H31年度 計画値	H31年度 実績値	R2年度 計画値	R3年度 目標値	R4年度 目標値	R5年度 目標値			
事業費(決算又は予算額) A		単位	0	0	238,575	134,841	151,860	33,340	57,340			
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	5,295	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	23,000	30,000	30,000	8,800	15,200			
	地方債	千円	0	0	104,600	86,400	81,000	21,700	37,600			
	その他	千円	0	0	40,499	0	0	0	0			
	一般財源	千円	0	0	65,181	18,441	40,860	2,840	4,540			
人件費 B		千円	0	0	3,951.4	3,192	3,192	3,192	3,192			
正職員従事時間×人数		時間×人	0×0	0×0	196×6	190×5	190×5	190×5	190×5			
正職員以外の人件費		千円	0	0	0	0	0	0	0			
その他の費用 C		千円	0	0	814	810	810	810	810			
トータルコスト A+B+C		千円	0	0	243,340.4	138,843	155,862	37,342	61,342			
単位あたりコスト ①		千円/m	0	0	58.6	33.4	37.5	9	14.8			
(トータルコスト/(2)の対象指標) ②		千円/	0	0	0	0	0	0	0			

事務事業名	No.	308	準用河川改修事業
-------	-----	-----	----------

2 評価 CHECK	この事業の必要性は薄れていませんか。十分な成果が得られていますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 得られている <input type="checkbox"/> 得られていない	理由	河川による災害から住民を守るのは河川管理者の責務であり、改修することでより安全な河川施設となるため十分な成果が得られている。
	事業進展等による環境変化に伴い、対象を見直す（拡大・縮小）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	1/5年確率の降雨に対応した河川にするための改修計画であり、環境変化に左右されない事業である。
	事業進展等による環境変化に伴い、目的を見直す（目的の追加・拡充又は絞込）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	1/5年確率の降雨に対応した河川改修は急務であり、目的変更するような環境変化もない。
	今以上に事業の成果を向上させる方法を記入して下さい。 ※(3)の成果指標を向上させることはできますか？	内容	用地取得が必要な事業であり、事業費が高く改修に時間がかかるため、成果を向上させることはできない。	
	目的達成状況	内容	令和元年度末において、河川改修率は82.67%である。	
	市関与の必要性 (実施手法)	内容	<input type="checkbox"/> 民間への一部委託 <input type="checkbox"/> 民間への全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金助成 <input checked="" type="checkbox"/> 市の直営 河川による災害から住民を守るのは河川管理者の責務であるため、市による施工となる。	
効 率 性	事務事業の統廃合により、事業の効率化を図り、成果を向上させる方法を記入して下さい。	内容	河川改修は他の事務事業と統廃合できない。	
	現状より事業費・人件費を削減する方法を記入して下さい。（仕様の変更、外部委託、従事時間の削減等はないか？）	内容	1/5年確率の降雨に対応した河川にするための改修計画であり、仕様等の変更はできない。	
公 平 性	受益者負担はありますか？ また、受益者負担割合は適正ですか？	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> 現状で適正 <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> 検討が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者がいない	内容	特定の受益者ではない。

3 改 革 改 善 案  A C T I O N	事業実施上の課題、住民・議会等からの意見と対応策	意見	準用河川の整備を実施するため、依存財源の確保が必要である。	対応策	依存財源（県費補助）を確保している。
	R2年度の事業計画は前年度から変更・追加はあるか	前年度	準用河川の改修	変 更 追 加	継続して実施するため、前年度と同様・同規模で実施。
	今後の事業・コスト・成果の方向性	今後の事業の方向性、改革・改善案 ※今年度からの具体的な事業の進め方、手段の見直し等、各方向性の内容 三好中部区画整理事業に合わせ整備することにより、早期に浸水被害の縮小を図る。			
コストの方向性		↑ 増加			
成果の方向性		→ 維持			